

## 一般選抜 総合「総合問題」(サンプル)

【問題】以下は幼児を対象にした、ある実験に関する記述です。文章を読んで各設問に解答しなさい。

生物<sup>(A)</sup>概念の獲得初期にある幼児はペット型ロボット (Figure 1) を生物として疑似飼育すれば、そこから生物概念の獲得が可能であろうか。そこで3歳児を対象に、ペット型ロボットを1ヶ月間<sup>(a)</sup>けいぞくして与え、疑似的な飼育環境を設定して行動を観察した。そして、幼児がそれをどのようにとらえるか、また行動の時系列的变化や<sup>(b)</sup>あきるまでの時期、さらには飼育に関する教育的教示(クラス担任の声かけ)の効果を検討することを目的とした。

Figure 1 実験に使用したペット型ロボット

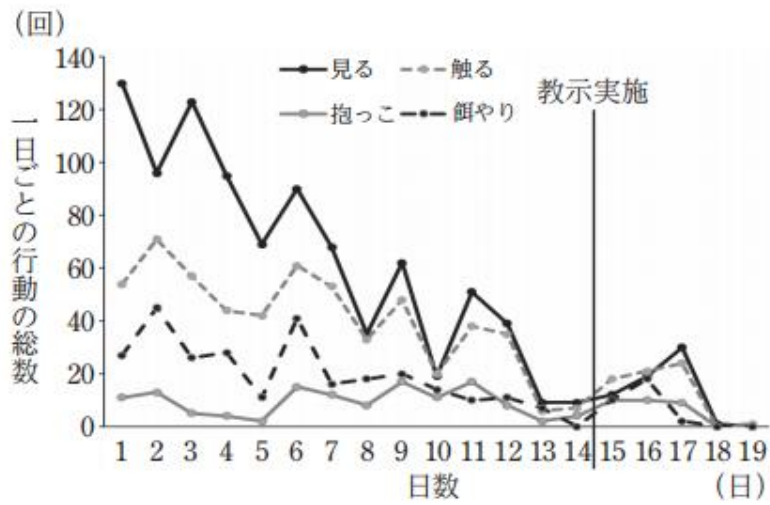


幼稚園の年少児23名(男児12名、女児11名、平均年齢:3歳7ヶ月、範囲:3歳3ヶ月-4歳2ヶ月)を対象とした。実施園および対象児のクラスの保護者全員から研究参加の同意をとった。恐竜型のペット型ロボット1台(ライフフォーム PLEO, UGOBE社製)および餌やりに使用する付属の葉っぱ(プラスチック製)を使用した。

幼稚園の保育室の隅に動くペット型ロボットの飼育コーナーを作り、飼育コーナー内に来た子どもの様子を、教室の天井に定点ビデオカメラを設置し、保育時間内(8:00-14:00)は常時録画することにより観察した。実験前にクラス担任より、クラスの子どもを集めて、ロボットをみんなで世話するよう教示をしてもらった。さらに、観察開始から15日目に担任より、ロボットの世話をやらないと本当の生き物だったらどうなるか、ちゃんと世話をするように、などと幼児に教示をしてもらった。

1か月間の観察期間のうち分析対象とした19日間の子どもたちの「見る」「触る」「餌やり」「抱っこ」の行動に対する一日当たりの総数を Figure 2 に示した。

Figure 2 行動別の一日ごとの総行動数



(坂田陽子 (2020). ペット型ロボットの疑似飼育は子どもの生物概念を発達させるか 発達心理学研究, 31, 4, 183-189. より抜粋の上、設問用に一部改変)

【設問】

1. 下線(a)および(b)を漢字にしてください。
  
2. 波線(A) \_\_\_\_\_ の用語を英語にしてください。
  
3. Figure 2 をみて4つの行動はどのように変化したか、15日目の教示の効果も含めて250字程度で述べなさい。
  
4. この実験結果から、動くペット型ロボットを疑似飼育することは、長期的にみて幼児は生物概念の獲得につながると言えるか、あなたの考えを述べなさい。